

## 教科書にそって、単元の学習をすすめるとき、教科書にも地図があり、地図帳をなかなか使えません。何か、地図帳を活用する糸口、その方法はありませんか？

回答者 東京学芸大学名誉教授 次山 信男

### 地図帳で“旅”をして、教科書が扱う地域に入ってみよう！

どの教科書にも、扱う単元の地域情報として地図が添えてあります。ですから、地図帳を活用したくても、そのチャンスがなかなかつかめないという声をよく聞きます。しかし、教科書で扱う地域（土地）は、多くの場合、教室の子どもたちのくらす地域と、距離的にも内実的にも遠く離れていることが多いのではないのでしょうか？ そこに目をつけて、単元に入るとき、自分たちの地域から、その教科書が扱う地域まで、地図帳を使って子どもたちに“旅”をさせてみてはどうでしょう。

たとえば、大阪の5年生が、単元『越後平野（新潟）の米づくり』に臨む場合です。はじめに、まず、大阪から新潟までのルートを、地図帳を自由に使って探らせるのです。ある子は「日本列島を見わたす地図」（帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』p.16～19）を開いて一挙に辿るでしょう。また、ある子は、「近畿地方の地図」（P.27～28）、「中部地方の地図」（p.31～32）、「関東地方の地図」（p.35～36）を順に追いかけて、大阪から新潟までの行程にある、交通路、県や都市、自然や産業などさまざまな情報を拾いな

がら辿るでしょう。

『わたしは、ゆっくり新潟まで旅をすることにした。まず、JR大阪駅から名古屋へ向かう。琵琶湖のあたりにくると水田がひろがる。山を越え濃尾平野に入ると、また、水田がひろがる。でも、その中に住宅や工場などがまざっているのが少し気になる。

次に、名古屋からJR中央線で長野へ向かう。木曾川の谷をはしり、山また山の連続。せまい棚田がところどころ。最後は、長野からJR飯山線に乗り換え、千曲川を下って新潟へ向かう。千曲川は信濃川に名前を変え、いよいよ越後平野だ。ひろびろとした水田が目にとびこんでくる……。』

（5年生・Aさんのノート）



各単元のはじめに、地図帳を通して、このような“旅”ができれば、学習の中でも地図帳に目が配られるようになり、学習の中身もずいぶん変わってくると思います。いかがでしょうか。

